

# 統合猪苗代中学校野球部

## 新旧両世代で大活躍



キャッチボールクラシック全国大会決勝の様子



全会津新人野球大会優勝

各地区の予選を突破した約30の中学校が参加したキャッチボールクラシック県大会は、令和4年8月7日に、ならはスタジアムで開かれました。キャッチボールクラシックとは、9人の選手が5人と4人に分かれ、7メートル離れて交互に投げ合い、2分間でキャッチボールが成立した回数を競う競技です。

猪苗代中は、2年連続3回目の出場で初優勝を果たし、全国大会への切符を勝ち取りました。

**全国第5位  
チーム過去最高記録**

オンライン参加を含め59チームが参加したキャッチボールクラシック全国大会は、令和4年12月3日に、県営あづま球場で開催されました。3年生で主将の佐瀬遥希（はるかき）さんは、選手宣誓の役割を堂々と務めました。

猪苗代中は、1回戦を110回、準決勝を124回で勝ち進み、12チームが争う決勝戦へ進

出。決勝戦では、チーム過去最高の127回を記録し、昨年の15位を上回る5位となりました。

**新チームで優勝  
全会津新人野球大会**

1、2年生の新チームで臨んだ全会津新人野球大会は、令和4年10月8、9日に、びわのかげ野球場で開かれました。

1回戦は湯川中に6対1、準決勝は一貫中に8対4、決勝は田島中に3対2で勝利。2年ぶりに全会津大会優勝を果たしました。

県中学校新人野球大会では、1回戦でいわきの小名浜一中に5対2で勝利しましたが、2回戦で石川義塾中に0対6で敗れ、ベスト8の結果となりました。

**【上妻浩一監督のコメント】**

コロナ禍でブランクや制約がありました。限られた時間の中で効率よく練習ができました。大会ではその成果を発揮し、新旧2つの世代で相次いで好成績を取めたことは、3年生にとつては最高の思い出、1、2年生にとつてはさらに上位を目指すための財産になったと思います。

## 高校生が献血を呼び掛け

猪苗代高校



記念品を手渡すJRCインターアクト委員会の生徒

猪苗代高校JRCインターアクト委員会の生徒5人は12月22日、「全国学生クリスマス献血キャンペーン」の一環として、町役場で行われた献血に合わせてボランティア活動を行いました。生徒たちは、来庁者に献血の協力を呼びかけたり、献血をした人に記念品などを手渡したりしました。3年生の田中このみさんと渡部光郁さんは「自分の行動で救える命があるので、たくさんの人に献血してほしいです」と話しました。

## 野口英世博士の生家で団子さし 翁島小学校

野口英世記念館では1月11日、五穀豊穡や無病息災を願う小正月の伝統行事「団子さし」を行いました。

団子さしには翁島小学校の1年生と3年生の児童29人が参加。同館の職員から「今年も雪が解けたら、米や野菜がいっぱい採れるようにと、気持ちを込めて団子をさしてください」と説明があった後、児童は野口英世博士の生家に設置された大きなミズキの木の枝に、色とりどりの団子をバランスよく飾り付けました。



ミズキの木に団子を飾り付ける翁島小の児童

## 地域おこし協力隊通信

私たちが地域を元気に！  
地域おこし協力隊

長友 海夢 さん

主な活動内容：地域活性化推進支援



地域おこし協力隊の長友海夢です。今年の3月末で協力隊員としての任期が満了します。任期満了後も地域に定住し、活動を継続できるよう、昨年7月に『株式会社いなびし』を立ち上げました。主な事業内容としては、これまで毎年駆除されてきた、猪苗代湖の水草『ヒシ』の種を活用した商品『猪苗代湖産ひし茶』の販売と、ヒシを活用した観光コンテンツの提供を行います。これまで湖の厄介者だったヒシを観光資源に転換し、新たな地域産業を創出します。将来的には持続可能な水環境保全事業の構築を目指し、自然環境の保全のみならず、地域経済の発展も視野に入れ、磐梯高原エリアの豊富な水資源をテーマに、世界有数の観光地として推進していきたいと考えています。

また、私のように20代でUターン移住し、ゼロから成功事例を作っていくことにより、今の若い世代に地域の可能性を示し、これから猪苗代で新しいことに挑戦する若者を増やしていきたいらと思います。

地域にとってプラスになるかどうかを長期目線で真剣に考え、思考を止めずにこれからも挑戦を続けて参りますので、引き続きよろしく願いたします。